

アクティブ運用会社としての進化とイノベーション

ニコラス・S・トゥルーマン

目 次

1. はじめに
2. 誰が老後資金を負担するのか
3. アクティブ運用会社の課題
4. リターンを生み続けるのに必要な要素
5. 資産運用は人材のビジネス
6. 重要性を増すテクノロジー投資
7. 終わりに

1. はじめに

複雑化する規制、投資家の選好の変化、プライベート市場へのアセットの移動、デジタル化の進展など、資産運用業は多くの課題に直面している。政治が不安定になっていることを背景に、市場のボラティリティが増している。中央銀行の独立性や公的年金についても議論がある。こうした状況は、当社（ティー・ロウ・プライス、以下、TRP）にとって、好機とみている。

TRPは、独立した資産運用会社として、米国で1937年に設立された。運用資産残高は1兆320億ドル、16カ国に拠点を持ち、従業員は世界全体で6,946名である。従業員持株比率が高く、従

業員と会社の利害が一致している。多額の現金準備金を保有するなど、財務的に極めて安定している。運用第一の企業文化と、顧客第一の姿勢を持ち続けている。

2. 誰が老後資金を負担するのか

20世紀半ば以降、寿命は着実に延びている。国別では日本人の寿命が最も長い。一般に女性は、男性よりも長命であり男性よりも賃金が低い。長命であるほど貯蓄の危機に直面する。世界中の人が長期貯蓄をますます必要としているが、退職後に備えた蓄えは不十分である。では、誰が老後資金を負担するのだろうか。



ニコラス・S・トゥルーマン (Nick Trueman)

ティー・ロウ・プライス グローバル・インベストメント・マネジメント・サービスズ (GIMS) アジア・パシフィック地域統括責任者、GIMS部門のグローバル・エグゼクティブ・コミッティーのメンバー。アジア地域を担当する以前は、当グループのロンドンオフィスにて、欧州、中東・アフリカ地域のコンサルタント・リレーションの責任者を務めた。英国エジンバラ大学にて修士号を取得（優等）(M.A.)。英国インベストメント・マネジメント・サーティフィケート (IMC) 資格保有。